

インフォメーション・コーナー

会 告

○「農業農村工学会誌等」既刊の学会定期刊行物の電子アーカイブ化に伴う著作権委譲に関する告知 (お願い)	102
○平成 21 年度ポスター賞の決定について	103
○第 4 回産学連携推進セミナー「ストックマネジメントとその周辺技術 (仮称)」への参加募集に ついて (再) ㊦	103
○平成 21 年度「研究グループ」助成の決定について	103
○学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!	104
○「農業農村工学会学術基金」の募金について	104
○農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願ひ	104
○身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!! 「水土の知 (農業農村工学会誌)」平成 23 年秋季～冬季の表紙写真の募集	105
○「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	106
○国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願ひと国際ジャーナル 「Paddy and Water Environment」について	107
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願ひと 2009 年 1 月から 2011 年 12 月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ	107
○中国四国支部第 33 回地方講習会の開催について (第 1 報) ㊦	108
○平成 21 年度材料施工研究部会研究奨励賞候補の推薦について	109
○第 47 回材料施工研究部会シンポジウムの開催について (第 1 報) ㊦	109
○農村研究フォーラム 2009 の開催について ㊦	109
学会記事	111

第 77 巻第 12 号予定

展望：河野英一

小特集：地域資源としての小規模灌漑施設のマネジメント

- ①バースクリーン型溪流取水工の設計と維持管理：小島信彦
- ②小規模灌漑施設における参加型管理の成立要因に関する考察：田村孝浩ほか
- ③わが国における灌漑用揚水水車の存廃要因と活用について：廣瀬裕一
- ④小規模な既設農業水路の管理保全に関するアンケート調査：佐藤周之ほか
- ⑤農家等による小規模水路の簡易点検・診断・補修マニュアル：森 丈久ほか

技術リポート

- 北海道支部：寒冷地における排水路護岸の傾倒要因調査：下元竜太郎ほか
 東北支部：広域農道計画路線内における重炭鉱採掘跡地の陥没対策事例：田中江利子
 関東支部：長寿命化を目的とした隧道補修工：八巻武正
 京都支部：五個地区の水路改修における底泥の処理と有効利用：今泉令男奈
 中国四国支部：未利用有機物 (バイオマス) を利用した耕作放棄地の農地再生：内海健司ほか
 九州支部：無播種のリサイクル植生基材吹付工による法面状況：高田 直ほか

小講座：マンボ：河地利彦

私のビジョン：補修・補強工事の施工において認識すべきこと：奥野倫太郎

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成21年11月19日	行事企画委員会	第4回産学連携推進セミナー	Ⓟ ストックマネジメントとその周辺技術(仮称)	東京都	77巻8,11号
平成21年11月25日	北海道支部	第32回シンポジウム	Ⓟ 北海道における農地の整備と地域農業の展開	札幌市	77巻9,10号
平成21年11月26,27日	水文・水環境研究部会	第22回シンポジウム	Ⓟ 農林地および広域の水文・水環境	つくば市	77巻8,9号
平成21年12月7,8日	応用水理研究部会	平成21年度講演会	Ⓟ 農業農村工学分野における応用水理学に関する研究	弘前市	77巻10号
平成21年12月10,12日	資源循環研究部会	平成21年度研究発表会	Ⓟ 農村における水やバイオマス等資源の利活用および循環	東京都	77巻8号
平成22年1月28日	中国四国支部	第33回地方講習会	Ⓟ 「土地改良事業計画設計基準—パイプライン—」の解説ほか	松江市	77巻11号
平成22年2月18,19日	京都支部	平成21年度地方講習会・支部研修会	Ⓟ	金沢市	77巻10号
平成22年3月5日	材料施工研究部会	第47回シンポジウム	Ⓟ 農業水利施設の補修・補強対策の現状と今後の展望	東京都	77巻11号

「農業農村工学会誌等」既刊の学会定期刊行物の電子アーカイブ化に伴う
著作権委譲に関する告知(お願い)

学会誌編集委員会・論文集編集委員会

会員ならびに著者各位

農業農村工学会(以下「当学会」という)は、昭和4年の学会設立以来、定期刊行物として学会誌を、また昭和35年に論文集を、さらに昭和57年には英文誌を刊行して参りました。80年の長きにわたりこれら定期刊行物を刊行できましたことは、ひとえに会員各位のご支援、ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

当学会ではこの度、既刊の学会定期刊行物を独立行政法人科学技術振興機構の電子アーカイブ事業における対象候補誌に応募し、対象誌として選定されました。

対象誌一覧

農業土木研究	1巻1号(1929)~32巻8号(1965)
農業土木学会誌	33巻1号(1965)~75巻6号(2007)
水土の知: 農業農村工学会誌	75巻7号(2007)~76巻12号(2008)
Journal of Irrigation Engineering and Rural Planning	1号(1982)~30号(1996)
Rural and Environment Engineering	31号(1996)~44号(2003)
農業土木研究, 別冊	1号(1960)~11号(1965)
農業土木学会論文集	12号(1965)~249号(2007)
農業農村工学会論文集	250号(2007)~258号(2008)

この電子アーカイブ事業とは、国内の学協会が発行する学術雑誌(ジャーナル)を電子データ化し、同機構のインターネットウェブサイト上で公開するものです。

これに当たっては、電子化された論文などはすべて同機構のサーバに保存されるため、対象誌すべての論文などの著作権が当学会に帰属していることが条件となります。

学会誌等の電子アーカイブ化に当たっては、著作権法により、掲載された論文などの著者からその著作権(複製権、公衆送信権を含む)の許諾または譲渡を必要とします。

現在は投稿要項等に論文などの著作権が当学会に帰属することが定められておりますが、投稿要項内に著作権規程を定める以前に掲載された論文などについては、著作権の委譲が明確にされていない状態となっております。

これらの事情からこの機会に、創刊号以来の著作についても著作権を当学会に帰属していただくことと致したく、本来であれば会員ならびに著者の皆様お一人ずつに「著作権の許諾手続き」を行うべきではございますが、当該告知をもって著作権の譲渡をお願い申し上げます。

万一、この件に関しましてご了承いただけない場合、あるいはご不審の点がある場合は、2009年11月30日までに当学会事務局に文書または電子メールでお申し出下さい。当学会は、このお知らせが著者の皆様の目に触れることを前提としておりますが、何らかの事情でこの件をお知りになる機会がなかった場合には、期限を過ぎましても、あらためて個別にご相談させていただく所存です。なお、お申し出のない場合には、ご了承いただけたものとし、電子アーカイブとして公開する時期が参りました段階で、論文などを掲載させていただきたいと存じますが、公開後の会員ならびに著者の皆様からの記事取り下げ要求に際しても柔軟に対応させていただきます。

また、前述のとおり、創刊号以降の全巻全号の電子アーカイブ化に当たって当学会にすべての冊子が所蔵されていないと確認された場合には、あらためて会員ならびに著者各位に対して該当冊子の寄贈をお願いする場合がございますので、その際には何卒、会員および著者各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
社団法人農業農村工学会事務局
E-mail : suido@jsidre.or.jp
☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

平成 21 年度ポスター賞の決定について

平成 21 年度農業農村工学会大会運営委員会

平成 21 年度農業農村工学会大会講演会において、38 名の方々がポスター発表をされました。当日は大勢の方が来場され、大会運営委員会において来場者の得票および研究内容を総合的に判断した結果、「最優秀ポスター賞」1 名が決定しました。なお、受賞者のコメントは本誌 90 ページに掲載しています。

最優秀ポスター賞

[3-29 (P)] 砂の連続空気量と通気係数の関係

代表発表者：京都大学農学研究所 深田耕太郎

優秀ポスター賞

該当者なし

第 4 回産学連携推進セミナー「ストックマネジメントとその周辺技術（仮称）」への参加募集について（再）

行事企画委員会

技術者継続教育プログラム認定申請中



(社) 農業農村工学会では、平成 18 年度から、農業農村整備に関する学術・技術の発展に資するよう、産と学のマッチングの場として、産学連携推進セミナーを開催してきました。

さて、先般の行事企画委員会において、平成 21 年度も昨年に引き続き産学連携推進セミナー（第 4 回）を来る 11 月 19 日（木）に開催することを決定いたしました。

今年度のテーマは「ストックマネジメントとその周辺技術（仮称）」とすることとし、今年度から各研究部会との連携を図り、大学の先生方の積極的な参加をお願いすることとなりました。

つきましては、今後さらに産と学の連携が重要になってくることを踏まえ、今年度も、昨年に引き続き下記の要領で開催することとしました。ふるってご参加願います。

記

1. 主 催 (社) 農業農村工学会
2. 後 援 (独) 農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所 (予定)
(社) 土地改良建設協会 (予定)
(社) 農業土木事業協会 (予定)
3. 日 時 平成 21 年 11 月 19 日 (木) 10:00~18:30
4. 場 所 農業土木会館 6 F 大会議室
5. プログラム (予定)

10:00~12:00 プレセッションー民間企業技術紹介ー

13:00~16:20 産学連携セミナー

①競争的資金、官民連携事業等の紹介

②産学連携の事例

③大学等によるストックマネジメントとその周辺技術に関する研究・企画の紹介

16:20~17:00 ポスターセッション

17:00~18:30 情報交流会

6. 募集する参加者

(1) 報告者

農業農村工学系大学および短大（研究室単位で参加）。なお、プレセッションでは、希望する民間企業は技術紹介もできます。

(2) 報告者以外の参加者

民間企業、大学、短大のほか、行政機関、研究機関などの関係者の参加を歓迎します。

7. 参加申込み

学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/>) 各種行事の参加申込書をメール (iwasaki@jsidre.or.jp) または FAX (03-3435-8494) でお送り下さい。

平成 21 年度「研究グループ」助成の決定について

研究委員会

申請のあった平成 21 年度「研究グループ」助成について、研究委員会において審査の結果、下記グループが認定されました。

記

代表者 桑原 智之（島根大学生物資源科学部）ほか 2 名
テーマ 水環境修復資材としての産業副産物の利用と安全性の

評価

代表者 山下 祐司 (東京大学大学院工学系研究科) ほか2名

テーマ 化学種の輸送担体となる腐植物質-粘土粒子複合体の土壌・地下水における移動現象

代表者 藤澤 和謙 (岡山大学大学院環境学研究科) ほか2名

テーマ 侵食・物質輸送・風化による土のダイナミクス

代表者 坂田 賢 (京都大学大学院農学研究科) ほか2名

テーマ ベチバー草を用いた沖縄県の赤土流出対策の取組み

学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!

行事企画委員会

技術者継続教育機構通信教育部会

通信教育を平成18年11月より本格実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間10CPDポイント、また、通信教育で最大年間18CPDポイント取得できますので、是非、通信教育にご参加下さい。

1. 参加会員の募集

参加をご希望の正・学生会員で、かつCPD会員の方は、農業農村工学会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) にある参加申込書に必要事項を記載してメール (E-mail: cpd@cpd.jsidre.or.jp) あるいはFAX(03-5777-2099)でお送り下さい。

なお、この機会に農業農村工学会、継続教育機構への入会を希望される方は、同様にホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>) に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。

2. 申込期限

参加は、いつからでも可能です。

3. 内容

問題は3カ月前の学会誌の報文等から、機構通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回10問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメールで機構に送信していただきます。

採点の結果、7割以上正解で1CPDポイント、満点で1.5CPDポイントが取得でき、CPD会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

4. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

「農業農村工学会学術基金」の募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成20年度までに49件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円 (何口でも可)

法人会員一口 50,000円 (何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採

用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「①農地・農業用施設に甚大

な被害が発生した自然災害」, 「②学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して, 災害発生後, 直ちに災害対応調査団を派遣し, 調査の実施, 復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで, 災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に, 早急に対応できるよう, 調査団のメンバーを希望される方は事前に登録の申請をお願いします。審査の結果, 登録された会員は, 災害対応調査団候補者名簿(2年ごと更新)に記載して, 緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお, 災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は, 以下のとおりです。

① 調査団の候補者は, 高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。

- ② 派遣する調査団員は, 候補者名簿の中から選定する。
- ③ 調査団の派遣期間は, 原則 2~3 日とする。
- ④ 調査団派遣に関わる旅費は, 農業農村工学会が後日精算する(年度予算限度額 300 万円)。
- ⑤ 調査団員に対して, 調査に必要と考えられる保険を掛ける。
- ⑥ 調査団は, 調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ, 学会事務局 FAX 03-3435-8494, E-mail saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードして下さい。多数の応募をお待ちしております。

なお, 登録頂いた個人情報, は, 災害対応調査にのみ活用し, 適切に取り扱います。

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!

「水土の知 (農業農村工学会誌)」平成 23 年秋季~冬季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では, 平成 23 年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。

趣 旨

わが国は急峻な地形であることや水田稲作が発達したことに起因して, 水を制する, 水を利用するための土木的施設が数多く造られてきました。それら用水路, 頭首工, 堰堤などの水利施設は, 今も過酷な自然の猛威にさらされながらも, 農業経営, 防災などの面で人々の生活を支えています。また, それぞれの機能を発揮するとともに, 年月を重ねることでその地域の自然や文化にとけ込み, その景観を構成する要素として不可欠なものもあります。それが大規模プロジェクトで建設されたものでなくとも, 私たちが調査・研究・事業の対象としている農村地域には, 規模に違いこそあれ立派に機能美と景観美を放つものが存在します。

農業・農村の現場で活躍される皆さま, 日頃何気なく見過ごしているかもしれない水利遺構とそれを含む景観の美しさを再評価いただき, 忙しい業務の合間にも, 足を止め, 手を休めて写真として記録いただき, 広く学会員にご紹介下さい。特に今回は, 「秋から冬」が感じられる「水利遺構」の写真を募集いたします。

記

1. テーマ

「水利遺構：先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」
(昨年と同様)

2. 対象巻号

学会誌第 79 巻 (平成 23 年 1~3 号, 10~12 月号)

3. 写真の種類

単写真, 組写真いずれもカラープリントで (デジタルカメラの場合は JPEG ファインモードまたは TIFF モードに設定) 撮影して下さい (サイズは六ツ切)。組写真の場合は, その旨明

記して下さい。

4. 枚 数

応募写真に制限はありませんが, 未発表のものに限ります。

5. 締 切 平成 22 年 3 月 31 日 (秋季~冬季の写真)

6. 審 査

審査委員会 (編集委員と写真家) で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 79 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し, 採用作品は平成 23 年度大会会場でパネル展示します。

8. 謝 礼

採用作品には規定の賞金(1 点につき 3 万円)をお支払いします。また, 応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History (表紙写真由来)」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History (表紙写真由来)」をご執筆頂きます。ご執筆の詳細は, 採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお, 些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用権

採用作品の使用権は (社) 農業農村工学会に属します。

11. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから, 募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか, 表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には, 水利構造物の形状や機能が, その写真から十分に読みとれること (花などの情緒物に埋没しないこと), また, デジタル画像の場合は表紙に拡大したときにドット崩れしない十分な解像度があること, が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより, 応募票をダウンロードし, タイトル,

郵便番号, 住所, 氏名, 年齢, 職業, 電話番号, 性別, 写真のテーマ, 撮影場所, 撮影年月日, 撮影データ (フィルム, 使用カメラ等), 対象物の固有名称 (固有名詞), 対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し, 応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお, 原則として, 応募写真は返却しません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(社) 農業農村工学会

農業農村工学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : suido@jsidre.or.jp

「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には, 農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」, 「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上, ご投稿下さい。

学会誌 77, 78 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)	原 稿 締 切 (刷上り 4ページ厳守)
77 巻 12 号 地域資源としての小規模灌漑施設のマネジメント (仮)	公募終了	
78 巻 1 号 地球環境 (地球温暖化) 問題と農業農村工学 (仮)	公募せず	
2 号 整備された環境配慮 (生態系保全) の順応的管理 (仮)	公募終了	
3 号 鳥獣被害の防止策とその効果 (仮)	公募終了	平成 21 年 12 月 10 日
4 号 パイプラインの再生技術 (仮)	平成 21 年 11 月 24 日	平成 22 年 1 月 12 日
5 号 農用地整備による地域の振興 (仮)	公募せず	
6 号 大会関連	公募せず	

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても, 広く募集しておりますので, 学会誌編集委員会あてにお寄せ下さい。なお, 小特集テーマが仮題となっているものは, 予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は, 刷上り 4 ページとなっておりますので, ご執筆の際には厳守いただきますよう, お願いいたします。

78 巻 4 号テーマ「パイプラインの再生技術」(仮)

近年, 全国的に, 老朽化に伴う各種水利施設の更新が行われています。パイプラインにおいても, 老朽化した管の更新や補修の必要性が年々増加しています。一般に, パイプラインの多くは, 地中に埋設されているため, 市街化等が進んで, 開削を行って更新工事を実施することが非常に困難な場合があります。また, 開削によって工事を行う場合でも, 大規模な工事となるため, 多方面から調査, 検討し, 経済性を考慮した対策が必要となっています。

このため, 管を新たに更新するのではなく管更生工など既設管を活かした技術が広く用いられています。この分野での技術の革新は目覚ましく, 多くの工法が提案され, 実用化されています。また, このような管体そのものに対する構造的な再生技術に加えて, パイプラインを水路としての機能を確保するた

ます。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(社) 農業農村工学会 学会誌編集委員会あて

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

め, スtockマネジメントに基づき既設管を評価し, 劣化の進んでいる管のみに対して補修等を施すことで, 機能を維持させるなどの対策も講じられています。こういった管体やパイプラインの再生に関して, 事例の紹介, 課題の整理, 新たな技術や手法の提案などを通じて情報の提供, 知識の共有を図ることは, この分野における一層の展開を期する上で, きわめて有用であると考えられます。

そこで, 本小特集では, パイプラインの再生技術に着目し, 管体に対する具体の再生技術のみならず, 水利システムとしてのパイプラインの機能維持を目指した手法や対策など, 幅広い内容にわたって, それらの適用事例, 動向, 展望等に関する報文を広く募集します。

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2009年12月末にVol.7, No.4が発刊されます。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを希望します。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気

象環境)

- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
 - ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)
- 水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として, 皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと, 会員には国際ジャーナルが, 年4回無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社 (ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000 円/年/4冊 (送料等学会負担)

学生会員 (院生含む) 8,500 円/年/4冊 (送料等学会負担)

申込先: 農業農村工学会編集出版部 馬目あて

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

※入会のお申込は, 学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>) の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ, メールまたは FAX でお申し込みいただけます。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと
2009年1月から2011年12月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2009年12月末にVol.7, No.4が発刊されます。

わが国においても学術誌の評価に、SCI (Science Citation Index) の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界13カ国から Editor (20名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer-Verlag 社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI 獲得のために年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが、投稿料、掲載料などを無料として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2009年1月から2011年12月までの編集事務局 (投稿先) は、台湾になります。

投稿先: Yu-Pin Lin, Ph. D., Professor

Department of Bioenvironmental Systems Engineering Na-

tional Taiwan University

No. 1, Sec. 4, Roosevelt Road, Taipei, 10617 Taiwan (R. O. C)

E-mail: yplin@ntu.edu.tw

TEL: +8862-2-3366-3467

FAX: +8862-2-2363-5854

(During Jan. 2009 to Dec. 2011)

編集方針: 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水, 土壌保全, 土地資源や水資源の保全と管理, 水田の多面的機能, 農業政策, 地域計画, バイオ環境システム, 生態系の保全, 水田保全, 田畑輪換等 である。

編集体制

• Editor-in-Chief: Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)

Professor Emeritus, Kyushu University, Japan

• Editors 13カ国から20名

• Editing Board 33名

• Managing Editors

• Chief Managing Editor: Prof. Dr. Yu-Pin LIN

Department of Bioenvironmental Systems Engineer-

ing, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

• Dr. Katsuyuki SHINOBU

National Institute for Rural Engineering, Tsukuba, Japan

• Prof. Dr. Haruhiko HORINO

Graduate School of Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Osaka, Japan

• Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Utsunomiya, Japan

• Prof. Dr. Soon-Jin HWANG

Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

出版社：Springer-Verlag 社（ドイツ）

投稿資格：筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等：http://www.jsidre.or.jp に詳細を記載しています。

中国四国支部第 33 回地方講習会の開催について（第 1 報）

技術者継続教育プログラム認定申請中



中国四国支部では、第 33 回地方講習会を下記のとおり開催します。

皆様のご参加をお待ちしております。

なお、講師等詳細については、学会誌 77 巻 12 号の第 2 報でお知らせします。

記

1. テーマ 「土地改良事業計画設計基準—パイプライン—」の解説

「農業水利施設の機能保全の手引き—パイプライン—」の解説

管更生工法に関する技術的話題

2. 日時 平成 22 年 1 月 28 日（木）9：30～15：00

3. 会場 くにびきメッセ小ホール

〒690-0826 島根県松江市学園南 1-2-1

☎0852-24-1111 FAX 0852-22-9219

URL：http://www.kunibikimesse.jp/

4. プログラム（予定）

9：00～ 受付開始

9：30～9：40 開会あいさつ

9：40～10：30 「土地改良事業計画設計基準—パイプライン—」の解説

10：30～12：00 「農業水利施設の機能保全の手引き—パイプライン—」の策定について

12：00～13：00 昼食・休憩

13：00～13：50 「管更生工法概念」（仮題）

14：00～14：50 「更生管の設計および性能照査手法」（仮題）

14：50～15：00 閉会

講師の都合により、講演テーマ等を変更する場合があります。

5. 参加費等

参加費 4,000 円（会員）

5,000 円（非会員）

昼食 1,000 円（消費税込）

（※会場周辺は食事をする場所が少なく、時間帯からも混み合うことが予想されますので、昼食の手配をご利用下さい。）

6. 参加申込み・参加費納入先

(1) 申込書

中国四国支部地方講習会参加申込書により所属機関ごとに取りまとめ、E-mail または FAX でお申込み下さい。

なお、申込書の様式（Microsoft Excel 形式）を、以下からダウンロードできます。

http://zoukou.life.shimane-u.ac.jp/~ici/koushukai/index.html

(2) 参加申込み・問合せ先

〒690-8501 島根県松江市殿町 1 番地

島根県農林水産部農村整備課企画調査グループ

担当：堀野，中村

☎0852-22-5142 FAX 0852-31-6274

E-mail：nakamura-hiroo@pref.shimane.lg.jp

(3) 申込締切日

平成 21 年 12 月 25 日（金）

(4) 参加費納入先

・銀行振込または、当日支払いです。どちらで納入するか申込用紙にご記入下さい。

なお、振込み後の参加費用等の返還には応じられませんので、ご注意下さい。

・振込先 山陰合同銀行 県庁支店

店番 005

口座番号 普通 3639677

口座名称 支部地方講習会実行委員会 中村裕大

（シブチホウコウシュウカイジッコウインカイ ナカムラヒロオ）

※手数料は振込み者負担をお願いします。

また、振込み元がわかるように、所属・氏名等は必ずご記入下さい。

7. 宿泊について

宿泊についての斡旋はいたしませんので、ご了承下さい。

8. 会場へのアクセス

(1) JR 利用の場合

- ・JR 松江駅より徒歩 7 分
- ・JR 松江駅よりバスで 3 分「松江駅・メッセ方面」行き
「くにびきメッセ前」下車
- (2) 航空機利用の場合
 - ・出雲空港より JR 松江駅まで空港連絡バスで約 25 分、
米子空港より同 45 分
 - (3) 自家用車の場合
 - ・山陰道「松江中央ランプ」より車で 10 分

平成 21 年度材料施工研究部会研究奨励賞候補の推薦について

材料施工研究部会

材料施工研究部会では、平成 15 年 2 月発刊の図書「建設材料—地域環境の創造—」の出版記念行事の一環として「研究奨励基金」を設け、材料施工関連分野の新たな発展に寄与することが期待できる研究発表を表彰いたします。学会誌 10 月号会告でお知らせしましたように、平成 21 年度農業農村工学会材料施工研究部会研究奨励賞の候補を公募いたしますので、会員各位には自薦または他薦による応募をお願いいたします。

募集要項の詳細は学会誌 10 月号会告 88～89 ページをご覧ください

下さい。

1. 応募締切

平成 21 年 11 月 20 日（金）

2. 応募先・問合せ先

〒183-8509 府中市幸町 3-5-8 東京農工大学農学部
材料施工研究部会 部会長 島田 清
☎042-367-5760 E-mail: shimadak@cc.tuat.ac.jp

第 47 回材料施工研究部会シンポジウムの開催について（第 1 報）

材料施工研究部会

技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 主 催 農業農村工学会材料施工研究部会
2. テー マ 「農業水利施設の補修・補強対策の現状と今後の展望」（仮題）
3. 講 師 農林水産省・研究機関・大学・自治体・民間の研究者および技術者（予定）
4. 期 日 2010 年 3 月 5 日（金）10：00～16：00
5. 会 場 科学技術館サイエンスホール
〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園 2-1
<http://www.jsf.or.jp/map/>
6. 参加費 4,000 円
当日、受付にて徴収させていただきます。
7. 申込み
以下の項目をご記入の上、FAX もしくは E-mail にてお申し込み下さい。その際、標題欄には「材料施工研究部会シンポジウムへの参加申込」と明記して下さい。
8. 申込先 〒305-8609 つくば市観音台 2-1-6
農村工学研究所水利施設機能研究室気付
材料施工研究部会事務局
申込受付担当：森 丈久、森 充広
☎029-838-7573 FAX 029-838-7609
E-mail: moritake @affrc.go.jp
9. 申込締切 2010 年 2 月 19 日（金）
10. 宿 泊 各自で手配して下さいますようお願い致します。
11. 問合せ先 申込先と同じです。
12. その他 詳細は、学会誌次号に掲載予定です。

農村研究フォーラム 2009 の開催について

農村地域の安全・安心のための社会工学と防災工学の連携

技術者継続教育プログラム認定申請中



農村工学研究所では、農村地域の防災・減災手法の開発をはじめ、水と土を生かし豊かな農村をめざして、研究・技術開発を進めています。その一環として農村研究フォーラムを平成 14 年度から毎年開催し、多方面の皆様にお集まりいただき、情報交換、問題点を検討して参りました。

今年度は、「農村地域の安全・安心のための社会工学と防災工学の連携」をテーマとして下記のとおり開催いたします。多くの皆様方のご来場をお待ちしております。

記

1. 日 時 平成 21 年 11 月 20 日（金）13：00～17：30
2. 場 所 秋葉原コンベンションホール
東京都千代田区外神田 1-18-13
3. 主 催 （独）農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所
4. 共 催 （予定）（社）農業農村工学会ほか 4 学協会
5. 後 援 （予定）農林水産省、日本民俗学会
6. プログラム
 1. 開会挨拶 農業・食品産業技術総合研究機構理事長

- 堀江 武 農村工学研究所施設資源部基礎地盤研究室長
2. 来賓挨拶 農林水産技術会議事務局研究総務官 中里 裕臣
- 藤本 潔 「農村地域におけるハザードマップについて」
3. 講演 農村工学研究所農村総合研究部広域防災研究チーム
- 基調講演 井上 敬資
- 「確実にやってくる大地震に対して—あるべき防災対策
の姿、ハードとソフト、事前と事後、公と私—」 農村工学研究所長 小前 隆美
- 東京大学生産技術研究所教授 目黒 公郎
- 講演 「地域計画に向けた地域防災力を考える」
- 三重大学大学院生物資源学研究科教授 春山 成子
- 「震災地域における農業・農村の復旧—新潟中越地震を
例として—」
- 新潟大学農学部生産環境科学科教授 有田 博之
- 「農地地すべり災害のモニタリング技術」
4. 閉会挨拶
7. 事務局
農村工学研究所企画管理部業務推進室運営チーム
E-mail : nkk-unei@mlaffrc.go.jp
☎029-838-7678 FAX 029-838-7609
8. 申込方法
農村工学研究所ホームページ (<http://nkk.naro.affrc.go.jp/>)
からお申し込み下さい。
9. その他 参加費無料

農業農村工学会選書 17

機能保全における性能設計入門

(社) 農業農村工学会発行

目次

第1章 性能設計の現状

- 1.1 はじめに
- 1.2 包括設計コード
- 1.3 性能設計の技術論的特徴
- 1.4 他分野の状況
- 1.5 農業・農村整備事業と性能設計
- 1.6 性能設計とストックマネジメント(マクロマネジメント)
- 1.7 補修・補強と性能規定化(ミクロマネジメント)
- 1.8 性能設計の到達点

第2章 信頼性の照査

- 2.1 施設の信頼性
- 2.2 部分安全係数法の理念と現状
- 2.3 レベルII信頼性設計法
- 2.4 レベルI信頼性設計法
- 2.5 感度係数とその意味
- 2.6 水利構造物に適した部分安全係数の値
- 2.7 開水路側壁基部の安全性に関する信頼性設計例
- 2.8 信頼性設計法の今後

第3章 安全性の照査

- 3.1 限界状態設計法の概要
- 3.2 構造物における安全性の照査

- 3.3 曲げモーメントおよび軸方向力に対する安全性の照査
- 3.4 セン断力に対する安全性の照査
- 3.5 終局限界状態の照査例

第4章 使用性の照査

- 4.1 使用限界状態の検討
- 4.2 断面力および応力度の算定法
- 4.3 曲げひび割れ発生の照査
- 4.4 曲げひび割れ幅の照査
- 4.5 ひび割れの使用限界状態の照査例
- 4.6 今後の課題

第5章 耐久性の照査

- 5.1 長期構造性能の照査
- 5.2 農業水利構造物の耐久性設計
- 5.3 性能照査型のコンクリートの配合設計
- 5.4 鉄筋コンクリート開水路の耐久性設計例

第6章 機能保全

- 6.1 農業水利施設の機能保全
- 6.2 農業水利施設の機能診断

第7章 施工および補修・補強

- 7.1 RC開水路の施工
- 7.2 RC開水路の補修・補強

A5判 約200ページ 定価4,500円(内税・送料学会負担)
 会員特価2,600円(内税・送料学会負担)
 [会員特価は、個人会員による前金購入の場合のみ適用されます]

申込先 〒105-0004 港区新橋5-34-4
 (社) 農業農村工学会
 ☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494